

ナンキンハゼ管理の試行調査 結果一覧

調査項目	試行の概要	調査結果の概要
草地のナンキンハゼ管理試行調査	草地に見られる4タイプの植生区で3手法のナンキンハゼ管理を実施	<ul style="list-style-type: none"> ●1回刈り <ul style="list-style-type: none"> ・全群落に変化は見られず、駆除効果はない。 ●2回刈り <ul style="list-style-type: none"> ・ナンキンハゼ群落とイワヒメワラビ群落のナンキンハゼは大株が多く、駆除効果はない。 ・ススキ群落とシバ群落のナンキンハゼは全て中小株で大半が枯死しており、駆除効果は大きい。 ●1回刈り+薬剤塗布 <ul style="list-style-type: none"> ・ナンキンハゼ群落とシバ群落のナンキンハゼは大株が多く、駆除効果は限定的。 ・イワヒメワラビ群落とススキ群落は全て中小株で、大半の個体が枯死しており、駆除効果が大きい。
樹林地のモニタリング区の継続調査	<p>【 M-1~4】</p> <p>ギャップ、密生林、密生林に分布するナンキンハゼを伐採してモニタリングを実施（萌芽枝の刈り払い継続）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ギャップ <ul style="list-style-type: none"> ・萌芽枝の刈り払いにより、萌芽枝数は大幅に減少(前年比2%、22%)。 ・減少は、刈払いの継続と下層植生の生長による日照遮蔽が要因。 ●密生林 <ul style="list-style-type: none"> ・萌芽枝の刈り払いにより、萌芽枝数は僅かに減少(前年比82%)。 ・減少は萌芽枝の刈り払いによるもので、下層植生は少なく変化なし。 ●散生林 <ul style="list-style-type: none"> ・萌芽枝の刈り払いにより、萌芽枝数は大きく減少(前年比42%)し、萌芽枝の高さや枝径も小さくなっている。 ・下層植生の変化は小さく、シダや草本との競合は見られない。
	<p>【 M-5、6】</p> <p>ナンキンハゼ成木群落のナンキンハゼを伐採してモニタリングを実施(刈り払いなし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ナンキンハゼ成木群落 <ul style="list-style-type: none"> ・萌芽枝は大きく減少(前年比8%、14%)したが、太く高く伸長。 ・萌芽枝の高さ約2mから約4mに、枝径は約1cmから約3cmに生長。 ・周辺はナガバヤブマオなどの草本が伸長。 ・結実の確認されていない。
	<p>【 M-7~9】</p> <p>ナンキンハゼ林のナンキンハゼに伐採+薬剤塗布と薬剤注入を行いモニタリングを実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●薬剤処置群 <ul style="list-style-type: none"> ・何れの方法においても枯死率80%以上の結果が得られた。 ・生存木は10~20%程度で、それらは部分的に回復傾向にある。 ・立木に薬剤注入する方法は生存した場合に高い位置で展葉するため、日照が得やすく早期に結実するものと考えられる。
樹林地の伐採手法の試行	ナンキンハゼ成木で伐採、伐採+薬剤塗布、巻き枯らし、伐採+根系被覆の処置を行いモニタリングを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採後の薬剤塗布が、効果が高く安全かつ確実であると考えられる。 ・根系被覆は、動物による剥ぎ取りが抑止できれば試行する価値はある。 ・巻き枯らしは、効果が低いことに加えて倒木の危険性もある。 ・伐採のみは効果が低い、下層植生の急成長の場合に限り駆除できる。
樹林地の伐採済箇所の継続的刈り払い	ギャップ及び密生林に分布するナンキンハゼの再生萌芽枝を継続的に刈り払い実施	<ul style="list-style-type: none"> ・刈り払ったナンキンハゼの個体には、過年度刈り払った株から再生萌芽したものと新たに実生から萌芽した1~2年生苗がある。